■「上郡町第５次総合計画後期基本計画」策定のためのアンケート調査の結果（まとめ）

令和２年度住民満足度調査に併せて実施した「上郡町第５次総合計画後期基本計画」策定のためのアンケート結果の概要をお知らせいたします。

A．定住意向について

- 「住みやすい」と感じている居住者が多く、特に全世代にわたって自然環境の豊かさや自然災害の少なさが、若年層においては静かに暮らせる点が評価されています。
- 居住意向については、当分の間は住み続けたいとの声が最も多い一方で、若年層を中心に町外にでたいとの声も多くあります。その理由としては、通勤・通学や買物などの日常生活に不便なことが挙げられる他に、若年層にとってはやりたい仕事や勉強にチャレンジできないこともあるようです。

B．これからのまちづくりについて

- 10 年後の町について、中高年齢層を中心に安全・安心なまちを期待する一方、子育て世代は元気な子どもの声が響くまちを、若年層は町並みや自然を活かしたまちであって欲しいと考えています。
- 活かすべき町の強みとして、自然の豊かさ、風景や町並みの良さのほか、既存の商業施設があることや、レジャー等で活用できる余地があるこを挙げられる一方、強みはないとの意見も多くありました。
- 高齢者が元気に過ごすために買い物のしやすさが期待されるほか、子育て支援では勤務先の子育て支援の充実や保育所、学童保育などの充実が期待されています。一方で、健康・医療においては交通利便性の向上が求められています。
- 雇用創出においては、若年層は学校等と連携した企業・起業講座や職場環境の良さに重点を置く一方で、中高年齢層にとっては地域資源を活用した仕事の創出を求めるなど、意見が分かれています。
- 余暇を充実させるために、若年層は川まつり等のイベントを求めていますが、子育て世代は公園、散策路、登山道の整備を、高年齢層は生涯学習支援に期待をよせています。

C．協働のまちづくりについて

- 協働のまちづくりを進めていくためには町職員の意識改革が最も求められており、町政の情報発信が必要と考えられています。一方で、幅広い世代で活動の場の提供が必要と考えており、イベントや子育て、教育などの情報発信を重要視しています。
- しかし、現在のまちづくりへの参画については、若い世代を中心に参画していない、中高年層を中心にどちらともいえないが多くを占めました。

D．行財政について

- 行政には、町役場の組織、機構の見直しや歳入増となる財源確保などを求める声が多くありました。特徴的なところとして、若年層にとっては、AI や IoT の積極的な活用を図って欲しいとの意見が多くありました。

E．これからの上郡町について

- 新型コロナウイルス感染症の影響は、感染リスクや収入減少、学業への不満など多くの不安等への意見が多い一方、不安がないとの意見も一定数ありました。
- 社会経済情勢の変化についていけず、過疎が進む、格差が広がることを懸念する声が多い一方、IT を積極的に活用すべきやアナログを重視すべきとの意見が分かれました。
- 5 年後、10 年後の上郡の姿は、子どもが育つ、若者が入ってくる、人口増などの成長する姿をイメージする一方、今ある自然を維持し、静かで過ごしやすい町など、多岐にわたる意見にあふれていました。